第 388 号
平成29年12月22日（金）発行

# 下商物語（その四三）

## 本校図書館（万古館）のはなし

教諭　林　俊行

本校の特色の一つに古くから図書教育に力がおいていることが挙げられます。ご承知のように素晴らしい沢山の書籍が図書館に保管され、生徒の皆さんが利用できますが、ここで本校の図書館について述べてみます。

明治三十七年の秋に図書室を「静修洞」と命名

大正七年七月　儒学者の藤沢南岳より寄せられた「万古休典」の扁額から「万古館（ばんこかん）沢山の立派な書籍があるところ」と命名されました

大正十一年　校友会図書部発足

三月　火災に遭う（蔵書七千八百冊焼失）

昭和十年　講堂一階に閲覧室及び書庫事務室を開設

昭和二十年　敗戦により書籍の廃棄処分（三千九百冊の蔵書で七百六十冊）

昭和二十三年　図書室が講堂から第一校舎西側二階に移転

昭和二十四年　図書の時間を設置

昭和二十九年　読書の手引き（本校分）を刊行

昭和三十年　新図書館（第二代万古館）創立七十周年記念事業

昭和三十九年　第二書庫増設　創立八十周年記念事業

昭和五十三年　多読賞制度開始（現在も）

平成六年　新図書館完成（第三代）図書館　創立百十周年記念事業　鉄筋コンクリート三階建　全館冷暖房　自動湿度調整設備　自動火災報知設備　収容可能冊数十万冊　一階（第一書庫・閲覧室、司書室、教官室など）　二階（第二書庫・閲覧室、郷土史・校史資料室）　三階（実習室、プログラミング室）

平成二十八年　蔵書　七万八千三百二十六冊

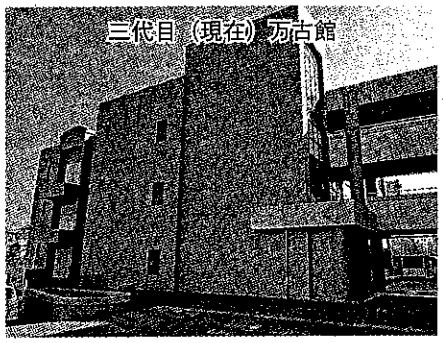
ところで、主な書籍の寄贈者（記念文庫として開設）は、石田文庫（明治四十三年卒）・村田文庫（明治三十七年卒）・布浦文庫（大正二年卒）・坪井文庫（大正二年卒）・近藤文庫（大正六年卒）・下野文庫（大正三年卒）などがあり、現在も一階閲覧室に生徒の目に触れられるように設置されています。また、館内には以前この下商物語でも紹介しました「関門地方経済調査（第一号は昭和三年に発行）」が、二階の郷土資料室に大切に保存されています。また、明治三十九年六月には、ブリタニカ百科事典（ロンドンタイムス社発行）全三十五巻が有志（十九名）の方々から寄贈され備え付けられました。それらは、第九版（第一～二十四巻）とその補遺として刊行された第十版（二十五～三十五巻）の三十五冊で明治三十六年に完結したもので、大正十一年三月の万古館焼失の際にも奇跡的に免れたのです。

本校には、様々な宝物がありますが、貴重な書籍もその一つです。普通は、蔵書が納まらない場合は、廃棄せずに新たな場所（図書館）に建てることで貴重な書籍を保存していく教えが古くからあります。来校者にこのことをお話しするとどなたも「凄いことですね」と異口同音に言われます。さて、ここで問題です「本校の蔵書で一番古いものはどんな書物でしょうか？」※解答は次号にて

最後に、数ある宝物の中ででも、一番の宝物はもちろん「生徒」ですよね。

初代万古館

三代目万古館


三代目（現在）万古館